

# 地理歴史科 学習指導案

令和4年 12月9日(金) 第1校時  
対象クラス: 4年D組  
実施場所: 図書室(ビブリオテカ)  
指導者: 松村 詠美

## 1 単元(題材)名

「世界の産業と人々の生活 ～生活文化の多様性と国際理解～」

## 2 単元(題材)の考察

### (1) 本時の目標

- ①アメリカの産業が世界に与える影響や、東アジアの経済成長とそれが与える影響、ヨーロッパの地域統合が産業や地域に与える影響について、グラフやデータの読み取りをもとに理解している。(知識・技能)
- ②アメリカの産業が世界に与える影響や、東アジアの経済成長とそれが与える影響、ヨーロッパの地域統合が産業や地域に与える影響について、背景まで含めて考察・表現している。(思考・判断・表現)
- ③アメリカの産業が世界に与える影響や、東アジアの経済成長とそれが与える影響、ヨーロッパの地域統合が産業や地域に与える影響について、自らの生活との関わりの中から課題を発見している。(主体的に学習に取り組む態度)

### (2) 使用教材

- ・教科書『高等学校 新地理総合』帝国書院
- ・地図帳『新詳高等地図』帝国書院
- ・Web GIS アプリケーション『地図太郎 Lite』

### (3) 単元観

平成30年改訂の新しい高等学校学習指導要領では、新しく「地理総合」、「歴史総合」、「公共」が創設され、3つの新科目が全て必修科目となった。「地理の必修は約50年ぶり」、「日本史と世界史が一緒になった歴史科目の新設」などが報道でも話題となった。

中央教育審議会(2016)に示された「地理総合」のもとになるのは現行の地理Aであり、「持続可能な社会づくりに求められる地理科目」として「地理総合」が位置づけられる。「地理総合」では(1)地図と地理情報システム(GIS)の活用、(2)国際理解と国際協力、(3)防災と持続可能な社会の構築、の3つの柱として採用された。

大項目「(1) 地図と地理情報システム(GIS)の活用」は、「(2) 国際理解と国際協力」、「(3) 防災と持続可能な社会の構築」においても活用できるように、地図とGISについて「以降の地理学習等の基盤となるよう、地理を学ぶ意義等を確認するとともに、地図や地理情報システム(GIS)などにかかわる汎用的な地理的技能を身に付ける」とされている。

大項目「(2) 国際理解と国際協力」はさらに中項目「ア 生活・文化の多様性と国際理解」、「イ 地球的な諸課題と国際協力」にわかれる。ESDの概念も取り入れながら学習する項目である。地理的な事象に関する国際理解、国際協力の主題が設定され、具体的な事例として地域を取り上げることで、グローバルな地理的観点から国際理解や国際協力について考察することを目指す。

大項目「(3) 防災と持続可能な社会の構築」は中項目「ア 自然環境と災害対応」、「イ 生活圏の調査と持続可能な社会づくり」にわかれている。アでは、日本国内や地域の自然環境と自然災害との関わりや、そこでの防災対策について考察し、イでは生活圏の課題を、観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて捉え、持続可能な社会づくりのための改善、解決策を探究する。ここでは地域調査などにより、地域をよりよく理解し、地域を持続可能な社会とするためには、実態を踏まえてどのように構築していかなければならないのか、その構想を深めることを目的としている。

以上より、「地理総合」の学習内容はこの3つの大項目を関連させながら、主体的に学習内容を追究して「資質・能力」を高めるところに特徴がある。「持続可能な社会づくりに求められる地理科目」

として、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせて、地球規模の自然システムや社会・経済的システムに関する「理解」、地理に関する情報を効果的に学べる「技能」、地理に関する諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、地域等の枠組みの中で概念等を活用して多面的・多角的に「考察」したり、地域にみられる課題を「把握」し、その解決に向けて「構想する力」、持続可能な社会づくりに向けて、地球的、地域的課題を意欲的に追究しようとする「態度」といった「資質・能力」があげられている。

今年度の地理総合の授業づくりにおいては、こうした学習指導要領の要請に照らして、次の2点を重点的に行ってきた。①GISを活用した、「人間と自然環境との相互依存関係」の考察、②協働的・対話的な学びを通じた「空間的相互依存作用」の検討である。前者については、次項で述べるようなWeb GISアプリの活用を通して、自然的条件と人文的条件を示すレイヤーを重ね合わせて考察することにより、人間と自然との関わりについて視覚的に把握するよう心がけている。後者については、人や資源を結ぶ交通網や通信網に着目し、相互に依存や協力している様子を考察するようにしている。これらの取り組みを通して、「世界で起こっている課題の要因分析力」や、「自らの生活とのつながりを考察する力」を培いたいねらいである。

本単元においては、①について、アメリカ合衆国・東アジア・ヨーロッパの3分野を追究事例として扱う。生徒たちは、これまでの基本的な気候や産業の学習から、1つの分野を選択して探究活動に取り組み、グループでポスターの形式にまとめる。その際、Web GISアプリを効果的に活用し、データを読み取り、仮説の検証に役立てることが求められる。

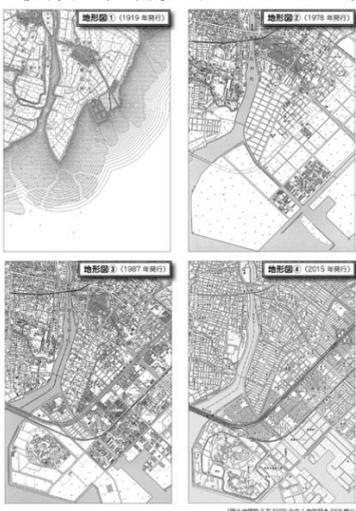
#### (4) Web GIS アプリ「地図太郎 Lite」の活用

「地図太郎 Lite」は、東京カートグラフィック株式会社が提供する、Web GIS アプリである。本校では本年度(2022年度)、中学校1年生・高校1年生での活用のために試験的に50ライセンスを導入した。本アプリケーションの特長は、Web版であることから、PCではなく、スマホやタブレットで生徒が直感的に地図表現やGISの操作を行うことができ、本校で取り組むICT教育との親和性が高いことである。また、新科目「地理総合」で危惧されている「生徒に苦手意識を植え付けることのないような授業展開の工夫が必要である」という指摘に対して、主体的に取り組む授業展開を可能にするアプリケーションである。

導入学年として、これまでに、3段階の活動を通してGISの利活用能力の向上に努めてきた。第一に、レイヤーを重ね合わせて読み取れることを考察する段階、第二に、標高や距離を示せるようになったり、自分でデータの表示形式を編集し、地図で表現したりする段階、そして第三に、自らが立てた仮説に対して、必要な情報を表現する段階、である。

第一では、浦安市を題材に、プリントにて地形図の変遷を読み取り(資料ア)、次に「地図太郎 Lite」の今昔マップを用いて地図を重ね合わせ、紙の地図と、Webの地図の読み取りにどのような違いがあるかを比較・考察した(資料イ)生徒からは、「同じ地点をレイヤーを重ねて定点観測できるので、Webアプリは優れていると感じた」といった振り返りが寄せられた。

(資料ア) 浦安市の地形図の変遷

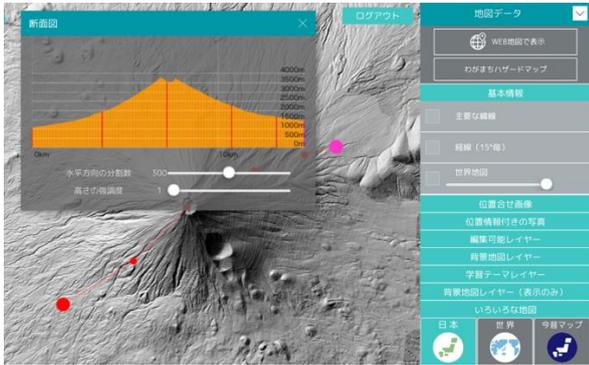


(資料イ) 今昔マップで2つのレイヤーを重ねたもの



続いて、「地図太郎 Lite」の機能に慣れさせるため、(資料ウ・エ) や (資料オ) のような活動を行なった。日本地図を用いて標高をグラフで表現し、任意の2つのレイヤーを重ね合わせてそこから何が読み取れるかをグループで話し合ってもらった。本アプリは二宮書店の「データブックオブザワールド」のデータを搭載しており、生徒が視覚的に把握できるような地理情報と組み合わせられていることが特長である。都市部と人口密度の考察を行ったグループは、「経済成長と大気汚染や人口密集といった、良いことと悪いことが同時に発生していることがわかった」と振り返った。

(資料ウ) 生徒が富士山の標高をグラフ化したもの



(資料エ) 生徒の活動の様子



(資料オ) 大気汚染と人口密度のレイヤーを考察したロイロのカード (個人情報保護のため一部改変)

レイヤーを重ねたスクショ

1つ目のレイヤー単体のスクショ

2つ目のレイヤー単体のスクショ

チームのテーマ

大気汚染と人口密度

2つのデータのレイヤーを重ねて読み取れたこと  
(予想・ギモンもOK・5個以上or100字以上！)

- 中国🇨🇳は人口密度と大気汚染が進んでいるところが一致している。
- インド🇮🇳は人口密度に関係なくインド全域で大気汚染が進んでいる。
- BRICsのような著しい経済発展をしている国に大気汚染が多い。
- 感染症の目立つ国に多い。
- 人口の多いインドと中国に大気汚染が集中している。

1a調べて分かったことなど

インドや中国では排気ガスを放出する自動車や工場がたくさんあること。

そして、今回のポスター制作では、課題発見からデータを用いた情報収集、ポスターへのまとめ・プレゼンテーションでの表現活動を通して、経済成長と世界の今後の課題を結びつけて考察するねらいがある。アメリカ合衆国・東アジア・ヨーロッパのうちから1つを選び、経済成長に関する課題を設定した。そこから、仮説を立てて経済成長の要因分析・世界に与える影響の考察を行い、資料のようなポスターにまとめた(資料カ・キ)。

(資料カ) アメリカについてのポスター例①(個人情報保護のため一部改変)

## アメリカに住む人々の10人に1人が移民?!

# アメリカ経済にとって、移民とは何か

～アメリカ経済と移民の関係性～

## 目的・予想

私は、アメリカ合衆国の移民と経済には、どのような関係があるのか気になったため、調べることにした。そして、アメリカは、移民が多く人材も豊富であることがアメリカの経済を支えていると予想した。

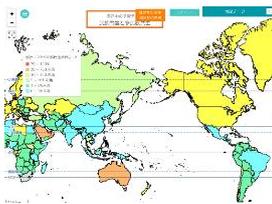
## 調査方法

私達は、アメリカ合衆国の移民と経済の関係を調べるために、インターネット検索をおこなった。また、「地図太郎」を利用し、アメリカの移民比率を調べた。

## 基本情報①

アメリカ合衆国がこれまでに受け入れた移民の数は、世界のどの国よりも多く、合計5,000万人を超え、現在も年間70万人近くを受け入れている。

これまで、新たな移民は母国の慣習を捨て、アメリカ様式を身につけることが多かったが、最近では、多様性に価値が見出されるようになり、各民族がその伝統を尊重し、移民の子どもの多くがバイリンガルであることが多い。



## 基本情報②

アメリカ合衆国、どこからの移民が多い?

1990年時点アメリカへ移民してきた人々の出身国上位9カ国は、メキシコ(57万,000人)、フィリピン(57万,000人)、ベトナム(4万9,000人)、ドミニカ共和国(3万2,000人)、韓国(3万人)、中国(2万9,000人)、インド(2万8,000人)、ソ連(2万5,000人)、ジャマイカ(1万9,000人)となっている。

アメリカ合衆国の移民の推移

アメリカに移住する人は、年々増えている。その理由は、やはり世界に大きな影響力を持つ国であるからだといえる。日本のおよそ25倍(世界3位)の国土面積、3億2000万人(世界3位)の人口、およそ18兆6000億ドル(世界1位)のGDP、さらに広大な農地で作るとうもろこしや小麦の生産量が世界1位など、全てにおいてトップクラスである。なぜ、こんなにも移民が増加し続けているのか。それは、アメリカがヨーロッパからの移民によって18世紀に建国されたことが背景にある。それ以来、ヨーロッパをはじめ、アジアやアフリカなど、さまざまな国や地域からの移民が増え、多くの人が「アメリカ人」として暮らすようになった。こうした歴史的な背景から、アメリカでは、さまざまな文化を持つ人々が一つの国の中で生活しているため、多種多様な文化である。



## 移民の国アメリカの光と影

アメリカが世界最大の移民受け入れ大国であることは、歴史的な事実である。この**自由な移民の流入が、経済成長の一つの原像**と言っても過言ではない。しかし、その一方で**トランプ大統領のような、移民に対する敵対的、排外的な主張をする人もいる**。この**反移民ポピュリズムあるいは、排外主義**といったものも同時に存在するのである。このように、両極端な特徴を持ち合わせているのが、「多移民の国、アメリカ」である。

## アメリカ経済を支える移民

### 1. 安価な不熟労働者

移民がいなくなったら都市機能は崩壊する。特にメキシコなどヒスパニック系移民が、サービス業や農業といった、アメリカ経済を支えている。また、アメリカの農業では、農産物輸出額の約90%がアジア系移民が担っている。その数は年々増加している。『不正』とされる人々が送られてくれば、農産物販売額は最大15%減少し、アメリカ国内の食料価格は5~6%上昇するといわれる。全てとは言えないが、品質感、高品質な労働力で働く移民がいるからこそ、アメリカ農業は国際競争力を維持しているといえる。仮に彼らがなくなったら、それはアメリカの消費者に跳ね返ってくる。



移民比率とトウモロコシの生産量を重ね合わせたデータ

### 2. 中国・インド系高度人材

アメリカ経済成長の原動力として登場したが、科学技術の能力に優れた熟練労働者やITエンジニアである。中国からやインドを中心としたアジア系移民が、高度人材と呼ばれる人達である。アメリカは戦後、移民政策を高度技能移民の積極的な受け入れ政策へと転換した。そこで急増したのがアジアからの移民であった。

### アメリカ経済を支えるインド人

注目すべき点は、インドからの移民が、現在のアメリカ経済を大きく支えていることだ。インドが独立した際、当時のインド第一首相は、輸入代替化政策、国家による産業の育成、高等教育の重視、先進国から種々の技術移転を積極的に実施し、時間をかけてインド経済を高度させた。戦後、インドは高等教育を充実させてITエンジニアを育てていったのだが、その背景にはアメリカやイギリス、ドイツやソ連からの資金・技術援助があった。さらにアメリカの財団や企業は、インドに大学や研究所を作った。インド経済の成長の背景には、アメリカの産業も、大きな役割を果たしたという事実もあわせておきたい。

アメリカ合衆国の国際移民数人口に占める割合

推移グラフ(1990~2015年)



## 移民を受け入れるメリット・デメリット

### 移民のメリット

- ・労働力の確保・人手不足の解消
- ・グローバル化の促進
- ・イノベーションの創出
- ・人口増加による経済の活性化
- ・多様性のある社会の実現

### 移民のデメリット

- ・文化や風習の違いによる誤解や偏見
- ・治安の悪化や犯罪率の増加
- ・保障や権利の問題
- ・雇用を外国人労働者に奪われる

## まとめ

今回、アメリカの移民と経済の関係性を調べて、移民の流入による直接的な経済効果は、労働力人口の増加であることを知った。また、インドからの移民が支えるアメリカ経済は、アメリカへの恩返しであることも分かった。さらに、現在のアメリカをみてみると、移民らはクリスマスなど、それぞれの母国の文化をアメリカに持ち込み、アメリカの地域社会をより豊かなものにしていくこともわかる。このように、多くの移民を受け入れることで、国はより豊かなものとなっていくのである。今は新型コロナウイルスなどの影響もあり、難しいかもしれないが、日本も、アメリカのこのような点を少し見習ってみたいと思う。

## 参考文献

- ・ <http://www.eufd.org/seminar/tms27.html>
- ・ [https://www2.nhk.or.jp/school/movie/outline.cgi?das\\_id=D0005120456\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/movie/outline.cgi?das_id=D0005120456_00000)
- ・ <https://storymaps.arcgis.com/stories/8c6de8b528e94c28a756e2367ef7afa1>

## 今後の課題

移民の中には、不法な入国や期限を過ぎた滞在をする人、不法移民がいる。不法な入国が増えると、国向きの関係が悪化する原因になる。

「不法移民が陥る環境」

- ・ 移住国において保護や権利認められない。
- ・ 貧困に陥る。
- ・ 犯罪に手を染めてしまう。
- ・ 母国に強制送還される。

また、合法的な移民であっても移住先の人たちや文化となじみずには確執を生んでしまったり、言葉の問題や生活の困難が原因で低賃金の労働を強いられる場合もある。**国際的移民は増えているため、移民問題も増えていくと思われる。**

(資料キ) アメリカについてのポスター例② (個人情報保護のため一部改変)



# アメリカ合衆国の影響について

～農業と産業の関係性・ICT技術の発展について～

担当者： [ ] ・ [ ]

### 目的・仮説：

産業と農業の役割がアメリカ合衆国と世界にどのように関係しているのかと関わりが知りたいから。

### 予想：

**産業**→起業する人が多いところ、土地がたくさんあった。

**農業**→アメリカ合衆国の気候に合わせた適地適作は、主に東と西で分かれている。

### 調査方法：

シリコンバレーやアメリカのICTが発展している場所・地形や隣国を地図から読み取り、関係性を調べる。また、アメリカのICT技術はなぜ世界中に影響を与えるのかを考えていく。

地図太郎を使用して、土地や気候のライアーを重ね合わせて西と東の自然環境に合わせた適地適作を読み取る。

担当者： [ ]

### 基本情報：

- (1) ICT技術が発達しているシリコンバレーはサンベルトにある。
- (2) 北緯37度の位置に置かれ、新しい工業地域として形成された。

サンベルトでは『温暖な気候』・『安価な土地・労働力』というのが特徴だ。

→このことが、企業が密集する理由とも言える。

### ⑤お題：「アメリカ合衆国（北アメリカ州）が世界中の人々の生活に影響を与えているのはなぜ？」

アメリカでは研究開発により生み出した新たな知識や技術があり、その技術を利用した商品が販売された。また、アメリカでは今まで蓄積させた知識を組み合わせ、開拓する**知識産業**が発達してきた。

### Qなぜシリコンバレー周辺ではICT産業が発達したのか。

このマップから、大手企業が多くシリコンバレーに分布していることがわかった。大手企業がシリコンバレー周辺を選ぶのは『温暖な気候』・『安価な土地・労働力』という地形的な問題が関係している。安価で土地が手に入れば、土地の広い工場や専門機械を多く扱える場所の確保など利点が多いからだ。

シリコンバレー企業マップ



### 結論

Apple、Googleなどが本社を置くシリコンバレー、アメリカのICTって何がすごい？シリコンバレーは、アメリカのカリフォルニア州にあり、名門大学の研究拠点として使われるなど、多くのICT企業が集中している。

このことから、航空宇宙産業やICT産業などの先端技術産業が発達した。

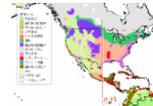
よって、このシリコンバレーのICT技術が発達しているのは、ICT技術に特化した企業・大学などが、密集しているからだとわかる。

### 参考文献

- 教科書P126～131
- https://social-line.com/americas-sunbelt/
- https://asmira.jp/20191128blog-north-america/
- https://note.jp/contents/b-contents-editorial-siliconvalley-180129/
- 地図太郎
- http://www.crosscurrents.hawaii.edu/extra.aspx?lang=jap&site=us&theme=food&subtheme=CROPS&founid=USFOOD016&choice=map
- https://minorasu.basf.co.jp/80117

担当者： [ ]

### アメリカ合衆国の各農業の要因分析①



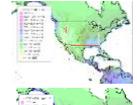
アメリカ合衆国の農業区分は酪農や混合農業、牧畜業が広がっている。企業的とは販売を目的として大量の家畜を飼育すること。

↓具体的に



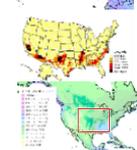
アメリカ本土の西側は牧畜地帯であり、東側は畑作地帯になっている。このように東と西で農業が異なることは、気候(降水量)が関係している。

### アメリカ合衆国の各農業の要因分析②



#### 調べてわかったこと

2つの図は豚と牛の飼育量について。アメリカ合衆国内の豚と牛は75～100mmの降水量の地域で飼育されている  
→降水量が比較的多い



#### 調べてわかったこと

上の図→棉花、下の図→小麦の栽培量について。  
棉花(コットンベルト)や小麦は25～50mmの降水量の地域で栽培されている  
→降水量が比較的小さい

### 今後の課題：

- シリコンバレー周辺でICTや企業など以外の新しい利用方法を考える。

先端技術を取り入れ、安全性の確立や自然環境への配慮に努めること

### 結論

[ ]：アメリカのシリコンバレー周辺は大手企業に選ばれ、ICT技術が発達した。選ばれる理由は土地が安価で手に入ることができると労働力が手に入るなど理由があることがわかった。

[ ]：アメリカ合衆国は広大な土地を利用しながら気候に合わせた大規模な農業をおこなっていることがわかった。

このような活動を通して、データをもとに仮説を検証する力、また世界の課題についてデータから読み解く力を養うことができたと感じている。今後は、自らが持ち寄った新たなデータを打ち込み、オリジナルの地図を作成していきたい。



4 タキソノミー・テーブルに対応した評価のためのルーブリック

(1) アメリカ合衆国を選択した生徒のポスター用ルーブリック (資料ク)

見通し・振り返りシート	第2部第1章5節 世界の産業と人々の生活		
	追究事例 産業1 産業力が世界の生活文化に与える影響		年 組 番 / 名前
「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点について、次の基準を参考に自己評価(表面)してみよう。			
	「知識・技能」の観点	「思考・判断・表現」の観点	「主体的に学習に取り組む態度」の観点
十分に到達できている (A)	アメリカ合衆国の産業が世界に影響を与えている点について、それらの産業が生まれる背景も含めて、教科書や地図帳などのグラフや写真、文章から読み取り、理解することができた。	産業力が世界の生活文化に与える影響について、学習した事項を用いつつ考察し、そのような産業が生まれる背景まで追究、表現することができた。	産業力が世界の生活文化に与える影響について、自らの生活に関わる課題を設定し、意欲的に追究することができた。
一部は到達できている (B)	アメリカ合衆国の産業が世界に影響を与えている点について、教科書のグラフや写真、文章を部分的に読み取り、理解することができた。	産業力が世界の生活文化に与える影響について考察し、表現することができた。	産業力が世界の生活文化に与える影響について、意欲的に考察することができた。
到達に努力を要する (C)	アメリカ合衆国の産業が世界に影響を与えている点について、教科書や地図帳の資料から読み取れず、まとめることができなかった。	産業力が世界の生活文化に与える影響について、あまり表現することができなかった。	産業力が世界の生活文化に与える影響について、意欲的に考察することができなかった。

(2) 東アジアを選択した生徒のポスター用ルーブリック (資料ケ)

見通し・振り返りシート	第2部第1章5節 世界の産業と人々の生活		
	追究事例 産業2 経済成長による人々の生活の変化		年 組 番 / 名前
「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点について、次の基準を参考に自己評価(表面)してみよう。			
	「知識・技能」の観点	「思考・判断・表現」の観点	「主体的に学習に取り組む態度」の観点
十分に到達できている (A)	中国や韓国における経済成長が、そこに暮らす人々に影響を与えている点について、経済成長がもたらされた背景も含めて、教科書や地図帳などのグラフや写真、文章から読み取り、理解することができた。	経済成長が人々の生活文化に与える影響について、学習した事項を用いつつ考察し、経済成長がもたらされた背景まで追究、表現することができた。	経済成長による人々の生活の変化について、自らの生活に関わる課題を設定し、意欲的に追究することができた。
一部は到達できている (B)	中国や韓国における経済成長が、そこに暮らす人々に影響を与えている点について、教科書のグラフや写真、文章を部分的に読み取り、理解することができた。	経済成長が人々の生活文化に与える影響について考察し、表現することができた。	経済成長による人々の生活の変化について、意欲的に考察することができた。
到達に努力を要する (C)	中国や韓国における経済成長が、そこに暮らす人々に影響を与えている点について、教科書や地図帳の資料から読み取れず、まとめることができなかった。	経済成長が人々の生活文化に与える影響について、あまり表現することができなかった。	経済成長による人々の生活の変化について、意欲的に考察することができなかった。

(3) ヨーロッパを選択した生徒のポスター用ルーブリック (資料コ)

見通し・振り返りシート	第2部第1章5節 世界の産業と人々の生活		
	追究事例	産業3	地域統合が人々の生活や産業に与える影響 評価表
年 組 番 / 名前			
「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点について、次の基準を参考に自己評価(表面)してみよう。			
	「知識・技能」の観点	「思考・判断・表現」の観点	「主体的に学習に取り組む態度」の観点
十分に到達できている (A)	ヨーロッパにおける地域統合が、そこに暮らす人々の生活や産業に影響を与えている点について、地域統合が生まれた背景も含めて、教科書や地図帳などのグラフや写真、文章から読み取り、理解することができた。	地域統合が人々の生活や産業に与える影響について、学習した事項を用いつつ考察し、地域統合が生まれた背景まで追究、表現することができた。	地域統合が人々の生活や産業に与える影響について、自らの生活に関わる課題を設定し、意欲的に追究することができた。
一部は到達できている (B)	ヨーロッパにおける地域統合が、そこに暮らす人々の生活や産業に影響を与えている点について、教科書のグラフや写真、文章を部分的に読み取り、理解することができた。	地域の統合が人々の生活や産業に与える影響について考察し、表現することができた。	地域統合が人々の生活や産業に与える影響について、意欲的に考察することができた。
到達に努力を要する (C)	ヨーロッパにおける地域統合が、そこに暮らす人々の生活や産業に影響を与えている点について、教科書や地図帳の資料から読み取れず、まとめることができなかった。	地域の統合が人々の生活や産業に与える影響について、あまり表現することができなかった。	地域統合が人々の生活や産業に与える影響について、意欲的に考察することができなかった。

5 参考文献等

- ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成29年告示)」文部科学省、2017年
- ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編」文部科学省、2017年
- ・ 井田仁康編著『高校社会「地理総合」の授業を創る』明治図書出版、2021年